

一般的な織物壁紙のメンテナンス

織物壁紙は、天然・人造素材を問わず、その独特でソフトな感触が特徴です。しかし、織物ゆえのメンテナンスの難しさがあり、特徴および一般的なメンテナンスについて説明いたします。

1. 織物壁紙の長所と短所

①吸放湿性

織物壁紙には吸放湿性や通気作用という特徴があり、ビニル壁紙のような結露をおこしません。従ってカビの発生が少なくなるという長所になるのですが、一方では、表面からの水分に対する抵抗がないため、シミなどを作りやすいという短所があります。

②ホコリの付着

織物壁紙は通気作用があるため、ホコリがつき易く、放置すると取れにくくなります。

③ジョイント部のホツレ

均一なシート状のビニル壁紙とは異なり、織物壁紙は切りつけたジョイント部の糸のホツレがおきやすくなります。特に厚手のテクスチャーを強調したのものにはこの傾向があります。

④直射日光

通常ではビニル壁紙と同様ほとんど問題ありませんが、ビニル壁紙より直射日光には弱く、長時間では変色することもあります。

2. メンテナンス

①ホコリ汚れ

織物壁紙の織組織や繊維に、知らず知らずのうちにホコリが付着します。できれば月に一度程度、ホコリを取除くようにしますと美しさが長持ちします。ジョイントの近くは糸のホツレを起こし易いので気をつけてホコリをとって下さい。なお、電気掃除機の場合は吸込みを弱くして下さい。

②シミなどの汚れ

織物壁紙には、シミなどをつけないように注意することが大事です。不注意で水がかかったり、開けっ放しの窓から雨水が吹き込んで壁を濡らしたりしますと変色の原因にもなります。部分的な汚れは、綺麗なウェットティッシュペーパータオルや、薄めた中性洗剤を溶かした水を含ませ硬く絞ったタオル等で、軽くたたくようにして汚れを落とします。簡単な方法としては消しゴムで軽くこする方法もありますが、朱子織などの高級品ではせっかくの光沢をも消してしまうことでもありますので注意が必要です。

③毛羽立ち

表面を強く擦ったり、家具などを当てないでください。毛羽立ちすることがあります。また擦られて意匠糸が飛び出すことがありますので、意匠糸等が長く飛び出した時は、飛び出した所だけをカットしてください。